

平成25年度外国語活動にかかわる現状と課題

部長 岩田 すみ江

1 外国語活動の動向

(1) 中学校と連携した取組

研究テーマは、コミュニケーション能力の育成に関するものが多いが、小・中連携に関するテーマも全体の三分の一に上っている。組織そのものが中学校と一体になっている地区に限らず、別組織ではあるが、積極的に連携を図ろうとしている地区も増えてきた。上越市では、小中学校の教諭とALTが一堂に会し、小中学校の「円滑な接続」や小中間での「教具の共通化」に取り組んでいる。また、柏崎刈羽地区では、中学校区ごとの取組が進み、小・中学校1回ずつの授業公開と連携会議を通して、外国語活動と英語との接続を図っている。

(2) 授業力向上の取組

2020年度には、3・4年生の外国語活動がスタートすることもあり、外国語活動のすそ野を広げたり、即戦力を身に付けたりしようとする取組が見られた。魚沼市や糸魚川市などでは、普段の授業に活用できるような題材や活動を取り扱った模擬授業を行い、三条市や村上市では、講師を招いて、授業づくりセミナーやワークショップなどを行っている。新潟市では、部員の一人一実践をレポートにまとめ、情報交換する機会をもった。

(3) 新潟県小学校教育研究会指定研究事業三年次発表

平成25年11月22日（金）、新潟市立湊小学校で研究大会が行われた。「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」を主題に、5学年「湊下町スペシャルメニューをおすすめしよう」（権平道子教諭）と6学年「自分のお気に入りの場所にカミール先生（ALT）を案内しよう」（森宏之教諭）の二本の授業が公開された。湊小学校の研究は「外国語活動のバドミントン理論」「外国語活動の評価」という二つのポイントにより、身近な事象（題材）を、ALT（対象）に、何とかして伝えようとする（課題）ものである。湊小学校周辺の地域、そこに生きる子どもたちの思いが伝わる提案性のある授業であった。

2 外国語活動の課題

小・中連携により、情報共有から教具の共有化や授業連携へと緩やかな接続が進みつつある。今後も互いの違いと共通点を明らかにしながら、子どものモチベーションを高め、コミュニケーションの本質に迫る授業実践へとつなげていくことが必要である。また、教育委員会や教育センターとの連携や、ALTの協力による研修を通して会員の授業力を高めている実践を参考にしながら、これからの英語教育の動向を見通した研究計画を立案することを期待する。